



原爆先生の特^{じゅこう}別授業を受講して

7000℃の少年。このタイトルは授業前には小さい子どもが原爆によって被害に遭ったようすを表しているのかと思っていました。しかし今、授業を受けたあとになってみるとそれは落とされた原爆そのものを表していることを学びました。

私がいちばん心に残っていることは8月6日に広島にいた人でも、いくつかの奇跡が重なって生き残った人がいるということです。生き残った人も、あのとき何かの状態が、少しでも違ったら、と思うと恐怖が止まらないだろうと思いました。また、原爆が落ちてくるとき、落ちると予想された時間帯の空気や周囲の状態の音の再現。強い風のような音が2回吹き、その間の静寂、そのあと再び長い沈黙が渡ったあとの爆音。体育館にいた人の多くが驚きと最大の恐怖を味わったと思います。また沈黙の間もとても怖かったです。8月9日の11時に落ちてくると予想されたときの音の再現時には震えて耳を塞いでいました。本物とは比になりませんが、戦争時に生きる人々の気持ちさがさらに分かった気がしました。そして、班長として生きる人もやはり一人の人間であることが痛いほど伝わってきました。兵隊さんというと強い、かっこいい、戦争中心、という印象がありましたが、兵隊さんだって私たちと同じ。死体の処理についての生々しい話は、聞くだけでも吐き気がするほど酷く心が締めつけられました。また、アメリカの目的設定委員会の人たちも京都が1200年の歴史をもつ古都であり、人の感情を考慮するといふことをしていたという裏側のような話も印象に残っています。

原爆について様々な角度から深く学べた貴重な体験でした。「きれいすぎる」という記憶と記録の違い。苦しみを伝えきれない苦しみ。聞いた話のほとんどが初めてのことはかりでした。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

今回原爆先生の話聞いて一言感想を言うと怖かったです。今までいろいろな授業の中で戦争や原爆のことについて少し学んだので基本的なことは知っていたが、今回スライドや動画を用いて詳しい説明をされたので、原爆のことについてより詳しく知ることになりました。改めて戦争の脅威を感じました。今回の特別授業で一番印象に残っているのは最後の池田義三さんの言葉のVTRです。自分が経験したことを涙を流しながら説明していて、僕は本当に辛くて苦しかったのだなと思いました。今平和があるのはこの時代の人たちの努力があったからだと思います。そして終戦から76年経った今、戦争を経験している人がとても少なくなっています。だから戦争を経験した人がこの存命のうちに関心や手紙として残して戦争を知らない世代に語り継いでいくということは大切ななと思いました。修学旅行に行けるが分からないが、長崎に行って戦争の惨状を見た時に今回学んだことを思い出して、戦争について考えていきたいと思っています。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

一番頭に残っているのは最後の5分間のムービーです。義三さんが途中で泣きながら震える声で文を読みあげている上、「そんな生ぬるいことではなかった」と言葉では表せない状態だったことがとても印象に残った。「キレイすぎる」と言葉を残したのはそんな惨めな場に居合わせたからなんだと思いました。義三さんが助けた足がうんでしまっていた姉さんは手紙でやり取りができるほど元気でいたのはとても驚きで、良かったなあ。と思ったのですが弟の方が亡くなっている事実を知りショックが大きかったです。実際に原爆を受けた街もその目見た義三さんま原爆病にならなかったのか、ただれた人はどんな姿なのか、脂肪がかたまっただけはどんな臭いだったのか。どれもその場に居て、その悲劇を味わった人からしか聞けない言葉だと思い、きっと本当の地獄だと伝わってきました。私は良い意味ではなく原爆に興味があって、でもその地獄絵図を絶対に見られないと思うとその話に出てくる世界はどんなだったのだろうと気になってしまいます。もちろん被害にあった人や義三さんから言わせれば、あり得ないだろうけどもっと原爆について知りたいと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

とても貴重なお話をありがとうございました。当時起きた事実を知ることができて、とても勉強になりました。どうして長崎・広島に原子爆弾が投下されたのかということは、知らなかったです。より、原子爆弾の威力が發揮できることとして、益々であった長崎と広島が選ばれたという事実を知り、驚きました。また、太陽の暑さと同じくらいものが上空600m付近まで迫っていたということは、考えられないです。どれだけ暑かったのか、どのようにして爆発したのか全く考えつかないほどです。本当に原子爆弾はおそろしいと思いました。もし、原子爆弾が投下されていなかったら、と考えると胸がいたみます。当時生きていた人がどれだけ痛い思いをして、どれだけつらかったのか、今回の原爆先生の話を聞いて深く考えることができました。キレイな姿で立っていた建物が原子爆弾によって、変わり果てた姿になった。原爆が、下りて、原子爆弾のおそろしさを再確認できました。今、私たちは今もおこなっている戦争について、身近に考えて、たくさんの人に語りついでいくことが大切だと思いを、これから戦争についてもっと知って戦争について深く考えていきたいと思いを、実際に原子爆弾の被害にあった方のお話を聞いてとても貴重な時間でした。

原爆先生

特定非営利活動法人原爆先生

<http://hiroshima9.com>

post@hiroshima9.com



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

今回原爆先生の特別授業を受講して初めて広島と長崎に原子爆弾が落とされたのを知ることができました。原子爆弾投下都市の候補になったのが広島・長崎以外に小倉・横浜・新潟・京都と6つの都市が入っていて、私たちの身近な横浜が候補に入っていることに驚きました。たまたま当日天気が良かったがために原子爆弾が投下されたと聞いてもし当日天気が良かったければこの何千人の人たちの命が一瞬でうばわれることになっていただろうに。とすこ悲しい気持ちになりました。

実際に戦争を体験した人の話を聞いて、その時の様子を思い出すと身震いしながら話を聞いて私が考えているよりもおそろしいことが自分の目の前で起っていたのだと、もし自分がその場にいたらどう思ったのか、今回の講習で考えることができてきました。原子爆弾が何度か聞いて高すぎてあまり実感はわかないけれど太陽よりも1000℃も高い物体が空のから投下され、3000℃の熱が一瞬に都市に広がるということを考えるだけで暗い気持ちになりました。もう二度とこんなことが世界でおこらないでほしいと思います。



原爆先生の特別授業を受講して

原子爆弾投下の瞬間を客観的に考えるのが難しく、「池田義三」の視点からリアルに体験できると、また違う視点からも原爆について考えたいと思います。印象に残ったのは、原爆投下直前の条件が、候補になる都市をしばるところです。平野であるというのに加えて盆地だと山に衝撃波がはね返って被害を拡大するなど、今の僕たちには想像できない考え方だと思いました。しかし、実際、当時はこの世界に、原爆を落とさないと作戦を考えない人がいたと思うとゾッとしました。たまたま1回の決断から、数えきれない人が亡くなったと思うと、その決断はいくら重要な作戦でも人の命に代えられるものではないと感じました。

他にも、原爆の落下予定地点で、先に気象を観測するラジオゾンダについての話が印象に残りました。気象によつて、小倉が投下をまぬがれたというのは、奇跡のような話だけれど、これによつて長崎は被害を受けたけれど、すこく複雑な気持ちになりました。投下した場所からずらして投下するなどについては、本当に人間を殺すために作戦を立っていたのがわかる。やはり戦争は人間を何よりも怖い生き物にしてしまうのだなと感じました。

原爆先生の話し方は、ときに感情的になるなど僕も聞いていて引き込まれることが何度もありました。原爆についてより深く、多角的に考えられるようになったと思います。



原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

今まで平和学習として原爆や広島、長崎のことについて学んできたつもりだったが、たいてい
実体験者のしかも当時最も近い場所
活動していた人の話を聞くことは、とても
貴重で人生で何度も経験できることでは
ないし、当事者にしか感じる事ができな
いことが多くあり、驚きの連続だった。
日記の中の話ではあたらしいが、悲しさと
残酷さで包まれてしまった灰まみれの広島
の惨状についてよく伝えた。同時に今の広島
の街の様子があまりにも信じられなくなった。
原爆をおとす候補に同じ神奈川県である横浜市
が入っていたことや親せきの住む新潟が
あったため、より危険性を身近に感じる事が
できた。だから今も落とされる危険がそばに
あるように思えてしまい、とても怖かった。



原爆先生の特別授業を受講して

原爆先生のお話を聞かせていただいて、
原爆の、一瞬にして人や家などたくさんの物を
焼き、とばしてしまふ恐ろしさを詳しく知る
ことができたので良かったです。爆心地から離
れていても威力がとてつもなく、戦争から何十年も
経た今でも放射線による被害で苦しん
でいる人がいると知り、もう二度と原爆に
よる悲劇を起さしてはいけないと思いました。
また、原爆を使用する理由となつた戦争も、
起さしてはいけないと思いました。

義三さんの話のなかで、原爆によつて亡くな
つた人の焼却を行つたときのことを知りましたが、
「人が人の姿ではなくなつてしまつていた。」と
いう部分が本当に話を聞いているだけなのに、
目をつぶつてしまひたいくなるぐらい恐ろしかたです。
最後に、義三さんが原爆資料館に行つて話し
た「きれいなさびる。」という言葉を、私はこれからも忘れ
ることはできないと思います。本当に貴重なお話を
聞かせていただき、ありがとうございました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

先日の特別授業はすこく考えさせられる時間でした。今まで、原爆や戦争については学校で学んできたが、こうやって細かく詳しくお話を聞いたのは初めてだったので驚くことがたくさんありました。

特に、広島で使用された「リトルボーイ」はパラシュートで落ちていないことが驚きました。何作か原爆に関する本など読んだことがあるのですが、たいていの本がパラシュートで落とされていたのでとても驚きました。

また、義三さんが平和記念館を訪れたときに「綺麗すぎる」という言葉をしたことが衝撃を受けました。実際に行ったことはないので、私かもし行ったら数々の原爆で被害を受けたものでショックを受けると思います。しかし、義三さんが見たのは、とほほしいものなのかと考えるだけで恐ろしいです。改めて、この戦争、原爆のことを美化してはならないし悲惨さを後の世代に伝えていくのは私たちなのかなと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

原爆先生の特別授業を受けて、改めて知ったこともあり、もっと詳しく知れたことも沢山ありました。私たちが今度長崎に行くときにも今回のことを忘れないで過ごせたらいいと思います。原爆が投下された広島と長崎は、今でも原爆の強さ・破壊力によって焼けこがれた姿の建物が残っていて、資料館などにはその当時あった物などが展示されていることにとても深い思いを抱いています。

実際に原爆を体験した方がどういう思いで1945年の8月を過ごしていたのか...話を聞くことはとても貴重な体験だったので、目の前で見聞けて本当に良かったです。資料なども配られて、その写真も見ながら説明をして下さったので、沢山の思い出を大切に保存することができました。私は社会科の授業や小学校の時の授業で、原爆について話に触れる機会がありましたが、基本の情報しか知らず、原爆が落とされる都市や原爆投下の条件など、もっとより細かいことが知りたかった。原爆というものについてより深く知ることができました。原爆投下に使われた爆弾の名前や、原子爆弾がどういう風に落ちていったのか、実際に原爆が落ちた時、どのような感情でどのような行動をして生きていたか...もっと知りたいこと、聞きたいことが沢山ありました。貴重な体験を本当にありがとうございました。



原爆先生の特別授業を受講して

私は、原爆先生の授業で改めて原爆の恐ろしさを知りました。特別授業では、原爆投下に至るまでの流れや原爆のしくみ、原爆の被害などについて詳しく説明されていました。原子爆弾を投下する都市の条件として「直径5kmを超える」「平野であること」「空襲がなかった」といったものがあるということが分かりました。原爆投下で候補になった都市は効果的に破壊することができるところで原爆投下された広島と長崎だけでなく、小倉・横浜・新潟・京都があったということは初めて知りました。広島と長崎に投下された原爆は、長さが約3m・重さは約4tもあると知り、驚きました。原爆は東京スカイツリーほどの高さで、太陽よりも高い温度で爆発あることが分かりました。原爆が投下された後には雲ができるしくみが分かりました。衝撃波は毎秒400mというものすごい速さだと分かりました。広島での原爆では14万人もの人、約5人に2人が亡くなってしまったと知りました。一瞬にして多くの人の命を奪った原爆の怖さがよく分かりました。私は広島や長崎の原爆の被害に遭った訳でもないし、その時代を生きていた訳でもないから、原爆については詳しく知りませんでした。しかし、この授業をして、原爆について詳しく知ることができて、その怖さを改めて感じました。これから原爆を使う国がないよう、原爆を使われる国がないよう、広島と長崎での原爆は世界でも語り継がれていくべきことだと思えます。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

原爆先生のお話を聞いて、本当に怖かったけど、実際に原爆にあつた人たちの
 話を聞いて、つらいかはわかりません。でも、原爆があつた音で先生が泣いてしまった
 ことが、とてもおどろきました。それと、「小冊子」という気持ちが大変なことです。

実際に私たちが体験しているように、聞いてもわかりやすかったです。いろいろな
 原爆のお話を聞いてきました。先生のお話のしなやかさ、うけい、かたが、心にのこりました。

それは「小冊子」。原爆にあつた人ほど、どんな気持ちだったか、それに合わせて、
 あつた人にも、悲惨なことがあつて、辛いこと。広島にある原爆の博物館の資料を見て、
 見ると、大冊子を見て「それは、おどろき」という言葉を聞いたとき、二人で、おどろ
 びました。私たちが原爆があつた時代に生きていた人
 たちは、生きてくたが、反対に、おどろき。

二度とそんなことをしてほしくないと思ひました。絶対に、おどろき、おどろき、
 平和な世界を作りたいです。もう一度と、あつた人、おどろき、
 ことをして、おどろき。おどろき、おどろき。

今日は、中学校にきて、おどろき、おどろき、おどろき。
 原爆のお話を、おどろき、おどろき、おどろき。
 本当に、おどろき、おどろき、おどろき。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

原爆先生のお話を聞いて、とても生々しい表現、音の再現にとりほたが立ち、

お話を怖さに思わが泣きそうになってしまいました。

原爆についてのお話を聞いたこと、原爆についての本を読んだことはありましたが、

におい、音などについて話したことがなかった。そんな子に知りませんでした。

さらに今回の話を聞いて、今更私がお話を聞いたお話をクローズアップ部分の多くは

切り取られていたという事に気がしました。これが本当の原爆だったんだと

思わ知らずもうお話を、時間だと感じました。

特に、「落けた皮」や「ズルッ」といふような表現にとり身震いしました。

思ったより悲慘で、考えに考えようの音や匂いがあることにとり恐怖を覚え

お話を聞いた日はとても水が冷たく、暗いところや一人の時間かととり怖いと

感じました。このようなおそろしい経験をしている人がいると思うと涙が流れて

しまいそうになります。さらに、悲慘な事を経験したばかりで、原爆症というものが

ある事に驚きました。原爆にふたつ散らされた放射線に子孫の事を知り、心から痛み

ました。そして、私が幼稚園生の頃に体験した福島原発事故により、地元に住むこと

時のことを思い出しました。今回の会では原爆の悲慘さ、残酷さ、おそろしいこと

を深く理解したと同時に原爆症にふたつ苦しんでいる人々がいたことに

学ぶことが出来ました。放射線は、有効活用でなければいけない、散らさず

絶対にあつてはならない、大前提として戦争を起してはならない、核爆弾は絶対



原爆先生の特別授業を受講して

本来徴兵をしないはずの17歳の少年も戦争に行かされ、それだけでも大変なはずなのに、八人の部下を持ち、長としてまとめている。たった2歳_半の年齢で、島を飛んでいるのに、本当にすごいなと思いました。

飛行時間が燃料トラブルにより短くなり、雲が中心で暗く、雨が降ったりと、様子を偶然か重なったからこそ、本来の町の中よりも島を飛んだ場所に落ちて被害を本来より抑えることができたことなど、今まで知らなかった原爆についての話を聞くことができ、もし原爆について知らなければならぬなと思いました。私も以前、原爆資料館に行き、たことがあり、そこで展示されている原爆の被害にあった物たちに私は圧倒されてきました。しかし、今回の授業で、本学は展示されているものよりも、とてつもないものだと聞き、やはり実際に体験した人から聞くことが最も戦争や原爆について知ることができると感じ、また、原爆の戦争がとてつだけひどいものが改めて感じました。



原爆先生の特別授業を受講して

中学三年生になり、「平和について学ぶ」というテーマに向けた学習して行く中で、原子爆弾・焼夷弾はなぜそこにおとされたのか、などの疑問が増え、
うきまきました。そんな中、今回原爆先生のお話を聞くことになり、もっと考えを
深めることになりました。今まで、空襲にあわれた方のお話を聞く機会が
ありましたが、原爆にあわれた方のお話を聞くことができ、とても貴重な
体験をすることができました。また、ただ「体験談を語る」のではなく、
原子爆弾の仕組み、当時のアメリカ軍の収容について詳しく話してくださり、
とても分かりやすかったです。私の祖母、祖父も戦争を実際に経験し、非常に
つらい思いをしたと聞きました。今こそ元気な祖父母ですが、昔はどんな思い
をしたのかと思うと、何とも言えない気持ちになりました。しかし、今回、他の
戦争を経験された方のお話を聞き、日本全体がどのような状況であった
ことを自分で感じるようになりました。現在、日本の歴史についてよく言われる
ようになり、今の日本はどのような道を歩いてきて、どのような壁にぶつかっ
てきたのか、興味をもつようになりました。中でも特に太平洋戦争について
調べ、どうしてこのようなことが世界からなくなっていくのか、考えるよう
になりました。神風特攻隊や原子爆弾、空襲など学ぶべきことはたくさん
あると思います。この授業を通してどのように学んでいけばいいか、知ることが
できました。



原爆先生の特別授業を受講して

原爆先生の特別授業を受講して一番私が印象に残
てる事が、池田さんがお父さんと一緒に原爆記念資料
館をおとすれた時に見た被爆者の様子を作られた人形を
見た時に発した「きれいすぎる」の一語でした。

私はそれを聞いた時なんとも言えないような気持ちになっ
た。「きれいすぎる」という一言だけに、原爆がどれほどまでに
悲惨で、おごいという事が分かりました。二番目に印象に
残っている事が、義三さん本人のビデオで、一泊り話
をきいた後で十分ひどさは認識してたのですが義三
さんが泣きながら原爆の被害について話しているのを見
て、おごい悲しい気持ちになって、こっちまで泣き
そうになりました。思い出すだけで自然と涙が出てくる
ような事があるという事実に本当に恐ろしいと思
いました。

今回の話をきいて思ふのは、原爆の本質の怖さは体験した
人しか分からないんだと思う。しかし私達は日本に
原爆が落ちて、たくさんの方が悲しみを亡くしたとい
う事を世代をこえてつたてていかなければと思
いました。



原爆先生の特別授業を受講して

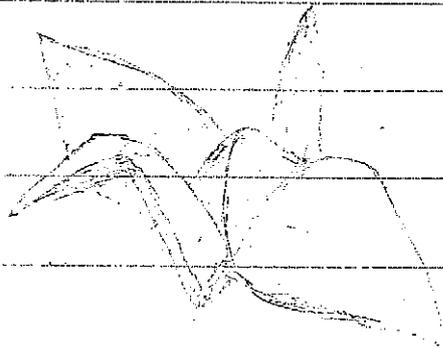
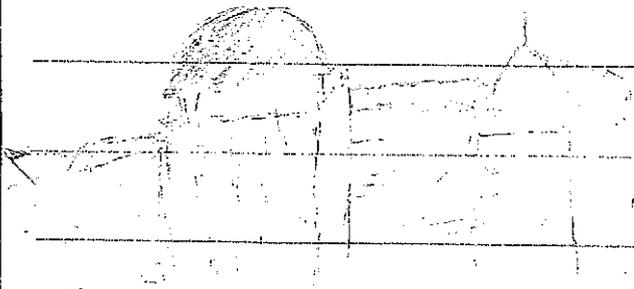
改めて戦争は怖いと思いました。候補に選ばれた都市に横浜、新三島、京都が含まれているのはじめて知りましたが京都が一番拾われていたのはとてもおどろきました。もしも京都に落とされていたら重要文化財とかもなくなっていて大変だと思いました。義三さんは漁船2歳、3歳くらいしか変わらないうちに元安川で遺体を見つたり焼きたりとてつらい。思ったら人だらう。と感じました。私だったら絶対にたえられないようなことを普通に課せられていたのはおどろきたし何かあっても生き残る上で忘れられないことだと思いました。

広島原爆は死亡率40%で5人に2人がなくなると考えると私たちが35人のクラスで14人が死んでしまっただけで被害が大きいことを身近に感じられました。もう3人亡くなった人も「もてあそばさった」と思っているだろうけど残された家族がたまたまのメタルがこぼれてしまわないかとそちらの方も心配になりました。悪いことをしてない人がいさなりせられてしまっても悲しいしかりなごも感じました。最後の方の2通の手紙を聞いたときに原爆の時に足さげした爺ではなくて弟の人が先に亡くなったのはおどろいたし戦争が終わった後も原爆症で苦しんでいる人が多くいて大変だなと思いました。原爆の資料館に訪ねたときに私とか戦争を経験してない人なら「ひどい」と感じると思うけど経験した人からは「美しい」と感じていてその言葉から自分が思っている以上に戦争は危険で大きな辛さを奪ったものなんだと考えました。だから戦争のことははっきりと命がけのようなことではなはいけれど戦争の話を聞いたりそのときの様子を見たり貴重な機会を大切にしてほしいと思いました。自分たちも2月に長崎に修学旅行に行くのでこのことを思い出しながら見学できたらいいなと思います!



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

先日はお時間を頂き貴重な体験をありがとうございました。話し方から当時の悲惨な状況が痛く伝わった。その後の原爆の恐ろしさも分かりました。また「エライ・アゲ」の話は印象的でした。千ベツト大在の母の名が使われているとなると、それで都市を爆撃していった千ベツト大在の当時の心境はどのようなものか考えるものばかりです。他にも原爆のバウシュートで降ってきたのが誤解であるというも印象的で、そのバウシュートの正体がラジエーションだったのは私もこのアニメを見たことがあり、おどろきました。最後の5分間の動画も、原爆による被害の悲惨さが分かったからこそ、彼の涙には心にグッとくるものがあり、とても5分では語りきれない強き思いがあるのだと思いました。





原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

「アメリカ軍がなぜ、広島や長崎に原爆を落としたのか」や

「原爆の威力がどれくらいなのか」などたくさんの事を教えて
いただいた。とても理解することができました。

原爆投下の音がとてもリアルで、その時の怖さを体験

することができて良かったです。どれだけの人が苦しめ

られたか、死んでしまったかと思うととても悲しい

気持ちになりました。とてもない雲ができてくるほど

原爆の威力が強いのと思うと体中がぞっとしました。

そして、その威力が音速よりも速く衝撃波が伝わるこ

を知ってすごく驚きました。原爆ドームの歴史も知れて

原爆のことについて詳しくなれて良かったです。

題名の「7000℃の少年」という意味が良く分かりました。

7000℃は原爆の表面温度のことであり、少年は「リトルボーイ

のことだと分かりました。



原爆先生の特^{じゆこう}別授業を受講して

平和はあたりまえではないので、今の私たちにできることを考えて行動しようと思いました。二度とくりかえしてはいけ
出来事だと思いました。池田さんの映像を最後に見て、とても
心にひびきました。「ラジオゾンテ」を広島の人々は、パラシュートに
ラジオゾンテをつけてとばしてきたのだと間違っていたのだと
知り、もし今ラジオゾンテがその状態でとんできたら私も広島
の人々と同じように間違えをしてしまうのかなと思いました。候補に
なった都市に横浜、新潟、京都が入っていることにびびりしま
した。原爆先生のお話は、とても上手で、きちんと感を持って聞くこと
ができました。原爆がおちてくる再現が、とてもリアルで、とてもびびり
しました。そのときの間で、深く考えることができました。今までと
原爆の話を知ったことがありましたが、池田さんの実際の話、と
てもリアルな話を聞き、今まで知っていた知識がより上がりました。
原爆投下の条件として、1. 直径5kmを超える 2. 平野で
あること 3. 空襲がなかったの3つの条件があるのだと知り、原
爆投下に条件があることにびびりしました。